

# 都立大ボラセン

— 都立大から生まれるボランティア活動 —

2021

## 特集1

### 大解剖！

ボランティアコーディネーター  
& 学生コーディネーター

## 特集2

東京2020オリンピック・パラリンピック  
競技大会に関する  
都立大生のボランティア参加実態調査

## 学内団体 News

第二回単独公演「猪祭（ばあさい）2021～かける～」を開催！  
OGも運営・パフォーマンスに協力。5期は引退へ。

都立大ラグビーパークが復活！！  
子どもたちがラグビーを楽しみました！

多摩地区の大学と地域によるネットワーク（ボラネット多摩）が主催する  
「大学生ボランティア活動展 ～さっ？多摩地域でこんなことをしていたの？～」  
に出展しました！

## I am a volunteer

変化する震災復興支援・東北への関わり方

放射線学科で学びながら、原発事故に向き合う

東日本きずなプロジェクト  
西山 千晴さん

表紙の人

体育会 ラグビー部



# 大解剖!

## ボランティアコーディネーター & 学生コーディネーター

どんなことをしているの?  
どんな人なの?  
そんなギモンに答えます!!

# Volunteer Coordinator

「ボランティアコーディネーター」という職業を知っていますか? 東京都立大学では、「ボランティアコーディネーター」という専門職の職員を採用しており、学生一人ひとりの可能性を広げられるようなサポートをまこなっています。

今回は、「ボランティアコーディネーターってどんな職業?」という皆さんの疑問に答えていきます!

ボランティアコーディネーターとは(認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会による定義)

「一人ひとりが社会を構成する重要な一員であることを自覚し、主体的・自発的に社会のさまざまな課題やテーマに取り組む」というボランティア活動を理解してその意義を認め、その活動のプロセスで多様な人や組織が相互に対等な関係でつながり、新たな力を生み出せるように調整することにより、一人ひとりが市民社会づくりに参加することを可能にするというボランティアコーディネーションの役割を、仕事として担っている人材(スタッフ)のことをいう。

上記の定義及び右図は、認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会Webサイトより引用



### ボランティアコーディネーターの一日

#### ● 通常(主に平日) ●



#### ● 活動日(主に土・日・祝日) ●

-地域ボランティアプログラム「松浜日向緑地プログラム」の活動日-



## ボランティア コーディネーターに 聞いてみました!



ボランティアコーディネーター(2018年4月~現在)

齋藤 元気



ボランティアコーディネーター(2021年10月~現在)

米川 理穂子

#### 質問リスト

- 大学ボラセンのボランティアコーディネーターになろうと思ったのはなぜ?
- 最も印象深い活動は?
- それはなぜ?
- 都立大ボラセンの魅力は?

あなたにとって、大学ボランティアセンターとは?

## 社会や未来をともに創っていくための スタート地点

Q1 社会課題の解決に関わりながら、学生とともに自分たちがこれから生きる社会を創っていかたいと思っていたから Q2 たくさんありますが、あえて挙げるなら2020年度に取り組んだ「ビジョン(2020-2025)」の策定 Q3 学生・教員・職員がそれぞれの視点を活かしてボラセンの未来を深く考えることができたから Q4 「ボランティアコーディネーターと学生が対等に議論したうえで、その想いをともにカタチにしていく」という環境が当たり前になっていること

あなたにとって、大学ボランティアセンターとは?

## 思いと学びと実践が繋がる場所

Q1 「繋がり」と「共に生きる社会作り」を大切に、全世代に渡る様々な角度からのソーシャルワークを実践していきたいと考えたため Q2 学生コーディネーターミーティング Q3 毎週学生コーディネーターの思いや意見をまいたり、話し合いをしたりすることで、気づきや新たな視点を得られるから Q4 多世代で交流し、創造、発信していきること

# Student Coordinator

都立大ボラセンには、学生の立場でボランティアコーディネーションを実践する「学生コーディネーター」があり、同じ学生の立場から、学生と地域をつなぐ活動を行っています。ボランティア活動を紹介したり、魅力を伝えたり、ボランティア活動に参加するためのきっかけづくりなど、ボランティアコーディネーター(職員)とともに都立大のボランティア活動の機運を高めるサポートをしています。学生コーディネーターの主な活動は下記の通りです。

#### ● 来室者への相談・支援のサポート ●

ボランティア相談のために来室した学生に対して、正課の学習や研究とボランティア活動の両立など、同じ学生だからこそ聞ける質問に答えたり、自身のボランティア経験をそとした活動先選びのアドバイスをしたりしています。コロナ禍で来室する学生は減りましたが、日々ボランティアコーディネーションの向上に努めています。

#### ● ボランティアセンター主催の年間行事への企画 ●

年間行事(オンライン講座や活動報告会など)の企画・運営や、「ボランティアプログラム」の運営サポートに主体的に関わっています。



#### ● ボランティア活動の啓発や支援に関わる学生コーディネーター企画の実施 ●

同じ学生の立場から、学生のニーズをそにして、「ボランティア活動を身近に感じ、参加につながるきっかけとなるような取組」をイチから企画し、実施しています。



#### 2021年度 学生コーディネーターが目指すもの

- ① 「ボラセンとつながるきっかけ」「ボランティア活動につながるきっかけ」「社会課題に対する学びの機会」を絶えず創っていく
- ② ビジョン(大学・ボラセン・地域)とニーズ(学生)をつなぐ
- ③ 学生コーディネーターがコーディネーション力を高める

# 学生コーディネーターに聞いてみました!

## 質問リスト

- 学生コーディネーターに応募したのはなぜ?
- 実際に参加してみよう?
- 最も印象深い活動は?
- それはなぜ?
- 都立大ポラセンの魅力は?



6 期生 (2018 年前期 - 現在)

宮崎 仁美さん

システムデザイン学部 インダストリアルアート 4 年

学生コーディネーターの魅力を一言で!

## 学びが多い

01 色々な角度からボランティアや社会問題と関わってみたいと思ったから 02 普通の学生だからこそできることがたくさんある 03 Onnena の講座 04 ずっとやりたいと思っていた企画を実現できたから 05 アウトホームを感じ



10 期生 (2020 年前期 - 現在)

味野和 豊さん

人文社会学部 人間社会学科 教育学コース 4 年

学生コーディネーターの魅力を一言で!

## 活動を創っていく楽しさ

01 自分のボランティア活動をサポートしてくれた先輩学生コーディネーターに憧れて 02 一つの企画で準備段階から多くの役割があり、大変な面もあるが、全員で協力しながら活動できている 03 前回の活動報告会 04 学生コーディネーターとして、初めて多くの方がいる中での活動になったため 05 ボランティアに対して誠実に向き合いながら活動していること



11 期生 (2020 年後期 - 現在)

田中 伸弥さん

プレミアム・カレッジ 専攻科

学生コーディネーターの魅力を一言で!

## 新たな人生経験の場となれること

01 以前からボランティア活動に関心があり、どの分野を深めるか考えていた中で、大学にボランティアセンターがあることを知った。いろんな活動を知ることができると感じ、ぜひ参加したいと思った 02 いろんな分野のボランティアがあることを知ることができた 03 オンラインで学び、考えよう!「ごみ問題の解決に向けた新しい取組」の担当と学生コーディネーターの石川さんとともにできたこと 04 初めて学生コーディネーターとして活動できたという実感があつた。また、ゴミ問題と真剣に考える機会をきっかけで、終了後は「活動して本当に良かった」と感じた 05 自分に合ったボランティア活動を見つける手助けをして頂けるとともに、様々なボランティア活動を通して自分の人生経験を高められること



12 期生 (2021 年前期 - 現在)

守口 亮太さん

人文社会学部 人間社会学科 社会学コース 3 年

学生コーディネーターの魅力を一言で!

## 安心感

01 藤藤さんがいたから 02 居心地がいい 03 Onnena 講座のチラシ作り 04 他のコーディネーターと知恵を出しながらかつて出来たから 05 ポラセンを訪れるとあんなに楽しそうに見えること



13 期生 (2021 年後期 - 現在)

明石 京花さん

人文社会学部 人間社会学科 社会学コース 2 年

学生コーディネーターの魅力を一言で!

## 明るく、楽しい

01 2 年の後期から新しいことを始めたかったから 02 新たに得るものがある 03 オンナの講演 04 初めて大きな活動に参加させてもらったから 05 優しい職員さんと活気にあふれた学生が集まっている



13 期生 (2021 年後期 - 現在)

萩元 千里さん

プレミアム・カレッジ 研究生コース

学生コーディネーターの魅力を一言で!

## ボランティア活動について心置きなく語れます! 同時に新しい発見があります

01 ボランティア関連の授業のグループワーク等で、一步を踏み出すことのハードルが高いのなと実感した。そのハードルを下げるお手伝いができる場だと思い、応募した 02 学部生との交流など、私自身一步を踏み出したことで世界が広がった 03 毎週のミーティング 04 昼休みの短い時間ながら、その時々アジェンダ達成に向けて率直な意見交換ができるから 05 センターが1号館1階と、立ち寄りやすい場所であること。そして一步踏み入れると、明るいメンバーが迎えてくれること

学生コーディネーターの魅力を一言で!

## アイデアを発信できる!

01 オンライン企画の制作に一緒に携わりたかったから 02 ちょっとした考えを取り入れてもらえる 03 活動報告会のテーマ決め 04 メンバーの多様な意見に触れることができたから 05 あらゆるアウトホームな場所

## 年2回、学生コーディネーターを募集しています!

毎年、前期と後期に学生コーディネーター募集をしています。募集期間には、現役学生コーディネーターによるオンライン説明会も実施しており、活動内容や活動頻度などの質問にも答えています。

募集開始時には、ボランティアセンターの Web サイトや Twitter などでもお知らせいたしますので、ぜひご確認ください!



## オンラインで学び、考えよう! 「音をからだで感じるデバイス“Onnena”の開発と社会実装」

## 学生コーディネーターの声から生まれました!

「オンラインで学び、考えよう!」シリーズは、ボランティア活動をはじめとする様々なアプローチにより解決を目指す社会課題を多様な視点から捉えるとともに、その解決に向けた先進的な取組ノウハウを学ぶことを目的として、コロナ禍が始まった 2020 年度から開催しています。

2021 年 11 月 28 日 (日) にオンラインと対面のハイブリッドで開催した「音をからだで感じるデバイス Onnena の開発と社会実装」は、一人の学生コーディネーターの想いから生まれました。

ある日、学部の授業に講師として来たのが、本多達也さん(富士通株式会社)だったそうです。「Onnena」の取組をそこで知り、関心をもちました。その後、その関心をポラセンの企画として実現したいと提案してくれました。2020 年度からボランティアコーディネーターと企画化について議論を重ねてはいたものの新型コロナウイルス感染症の影響により、実現に至るまでに時間がかかってしまいましたが、「音が聞こえない」ことにより生まれる障害、その社会課題を解決するための取組を学ぶ機会として企画化すること、そして本多さんにお声がけすることが決まりました。

講師としての協力依頼も学生コーディネーターが自らメールを送っておこなった他、講師との打ち合わせ、当日までの準備、当日の運営に至るまで学生コーディネーターが中心となって行いました。



▲チラシも学生コーディネーターが作成!



▲学生コーディネーター、文学通訳者と講師の本多さん

都立大ポラセン  
YouTube チャンネルで  
アーカイブ動画を公開中!



## 都立大生のボランティア参加実態調査

回答の一部を  
紹介します！

### 調査概要

#### 目的

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会大会に向けたボランティア活動支援の取組を振り返るとともに、今大会における学生（一部卒業生を含む）について、その活動参加実態を調査することにより、これまでの本センターの取組の成果と課題を把握し、それらをレガシーとして今後の取組に生かすこと。

#### 対象者

- 都立大生（学部生、大学院生、プレミアム・カレッジ生）及び都立大卒業生のうち、
- A. 東京2020 大会に関わる活動にボランティアとして申し込んでいたが、活動しなかった（辞退など）
  - B. 東京2020 大会に関わる活動にボランティアとして申し込み、予定通り活動した方

#### アンケート実施期間

2021年10月11日（月）～11月19日（金）

### A 大会前について：東京2020大会へのボランティア参加応募の状況

東京2020大会へのボランティア参加応募について、ご自身に当てはまるものをお選びください。



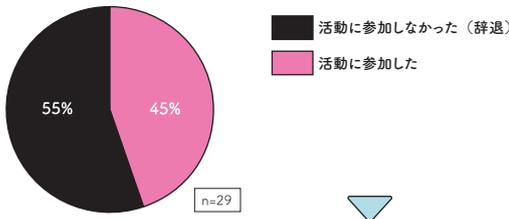
申込時、どのような想いや理由で活動参加を決めましたか？

（一部の回答を紹介）

- ・高校の時からボランティアに興味を持っていて、ちょうどオリンピックボランティア募集のチラシが高校に置いてあるのを見つけてせっかくの機会だから応募してみよう！と思い、応募しました。（2年生/ City Cast）
- ・一生に一度の経験ができると思った。海外の方との交流を楽しみたかった。（4年生/ City Cast）
- ・オリンピックの試合を間近で見たい（4年生/ Field Cast, City Cast）
- ・東京で行われる大会にボランティアとして力になれたらと思った。（4年生/ City Cast）
- ・スポーツジャーナリズムやメディアの仕事について興味があったから。（4年生/ 国際オリンピック委員会の学生リポーター）
- ・オリンピックに携わる機会は最初で最後のような気がし、またこの機会を通じて他では味わえないような様々な経験をできると考えたから。（博士後期1年/ Field Cast, City Cast）
- ・会社を辞めてこれにかけようという想いでした（少し大袈裟ですけど）（プレミアム・カレッジ本科/ Field Cast, City Cast）
- ・思い出、貴重な経験になると思った（卒業生/ Field Cast, City Cast）

### B 大会本番（開催期間中）について：東京2020大会へのボランティア参加状況

東京2020大会へのボランティア参加について、ご自身に当てはまるものをお選びください。



当初（申込み時）の予定より、開催が1年延期になりましたが、「活動に参加しないこと（辞退）」を決めた理由や想いがありましたら教えてください

（一部の回答を紹介）

- ・就職活動との両立が難しいから。新型コロナウイルスに感染したら就職活動ができなくなるから。
- ・アスリートサポートプログラムは、活動が中止になってしまったので残念だなと思いました。でもコロナだから仕方ないと割り切っていました。
- ・延期や社会的な雰囲気により（コロナ禍で自粛を国民に呼びかけるのにボランティアは集めるなど）、他の活動と比べ優先順位が下がったから。
- ・ボランティア参加によりコロナに感染して研究室全員に迷惑をかけることが懸念されたから
- ・学業が忙しくなり活動に参加する時間を十分に確保できなかったため。
- ・社会人になってしまい、予定が合わせられなくなったため
- ・参加するつもりだったが、役割が観客サービスだったため前で活動自体なくなってしまうため。
- ・コロナ禍が続く中、大会自体を開催してもいいのかわ疑問に思ったから。
- ・新型コロナウイルスの感染により高競が仕事を休まなければならなくなる可能性があったため。

### ▼【Field Cast（大会ボランティア）について】活動の担当、自分の役割、会場、活動スケジュール

活動区分	自分の役割	会場	活動回数（日）	活動時間（h）
移動サポート	運転及びドライビングサポーター	運営サポート選手村（オリンピック） 築地アポ（パラリンピック）	不明	不明
	オリンピック関係者のフォロー（IOCの人、レフリー等）	国技館	1	6
競技（競技サポート）	競技サポートのチームリーダー	伊豆修善寺、マウンテンバイク競技場	6	60
	審判補助コースマージャーナル	伊豆ベロドローム 自転車競技ロード	7	不明
案内	オリンピック開会式リハーサルサポート、 パラリンピックアクセスコントロール	オリンピックスタジアム	2	11.5
ヘルスケア	急病人の応急処置対応、急病人の救護室への引き渡し	有明アーバンスポーツパーク、 有明テニスの森、メインプレスセンター	6	37
運営サポート	VCC（無線のログ取り・中継・発報）	有明アーバンスポーツパーク	11	83.5
	ボランティア・審判団へのユニフォーム配布	UAE	10	60

最小活動日数：1日（平均：6.1日）-最多活動日数：11日 / 最小活動時間：6h（平均：43h）-最大活動時間：83.5h  
※不明なデータを除く

### ▼【City Cast（都市ボランティア）について】活動の担当、自分の役割、会場、活動スケジュール

活動区分	自分の役割	会場	活動回数（日）	活動時間（h）
競技会場最寄り駅や 競技会場までの動線での 観客の案内、サポート	観戦自粛の呼び掛け	国立競技場周辺（北参道交差点）	1	1
競技会場最寄り駅や 競技会場までの動線での 観客の盛り上げ	パラリンピック見学に来ていた中学生のお見送り	オリンピックスタジアム	1	2.5
その他①	ラストマイルという、本来は観光客の案内等を予定していたが、コロナ禍のため変更になり、熱中症対策グッズを配ったり、声かけをしたりした。	お台場	2	7
その他②	選手やスタッフが試合会場入りする際のお迎え、江ノ島に歸られた市内小学校からお預かりしたあさがおの水やり	藤沢市江ノ島	2	1.75
その他③	オンラインでの応援メッセージ投稿	自宅	不明	不明

その他①→選抜試合があるような内容とする予定であったが、コロナ禍のためその活動はなくなった。代わりに、聖火台周辺等で熱中症の注意喚起やソーシャルディスタンスの確保などを呼びかけた。  
その他②→選手やスタッフが試合会場入りする際のお迎え、江ノ島に歸られた市内小学校からお預かりしたあさがおの水やり  
その他③→オンラインでの応援メッセージ

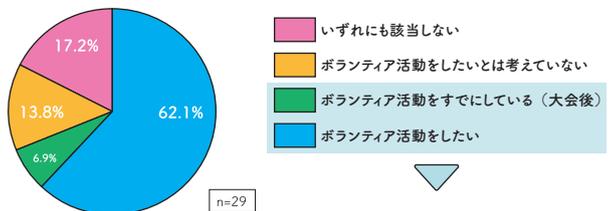
最小活動日数：1日（平均：1.5日）-最多活動日数：2日 / 最小活動時間：1h（平均：3h）-最大活動時間：7h  
※不明なデータを除く

### ▼【その他の活動について】活動の担当、自分の役割、会場、活動スケジュール

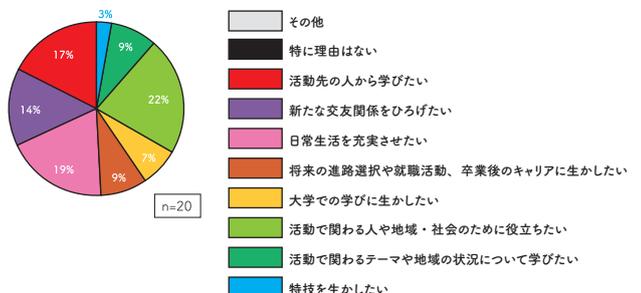
活動区分	自分の役割	会場	活動回数（日）	活動時間（h）
アスリートへのインタビュー	学生リポーター	各種競技会場	17	不明
無回答	無回答	無回答	無回答	無回答

### C 今後について：大会後のボランティア活動への関わり

大会後に、ボランティア活動をしたいと考えていますか？



そのように考えている理由を教えてください



# 学内登録団体 News



競技チアリーディングサークル WILDBOARS

第二回単独公演「猪祭（ばあさい）2021～かける～」を開催！  
OGも運営・パフォーマンスに協力。5期は引退へ。

演目

1. ともに構成
2. ダンス構成
3. 引退構成
4. コラボ構成

当日の様子は、  
WILD BOARSの  
Instagramで公開中！



2021年12月18日（土）に、南大沢文化会館 主ホールにて、競技チアリーディングサークル WILD BOARS 主催の単独公演「猪祭～かける～」が開催されました。単独公演は、コロナ前の2年前に開催以来、2度目の開催です。

これまで WILD BOARS は、新型コロナウイルスの影響により活動機会が減少する中でも、技の種類増加や完成度の向上を目指して練習に取り組んできました。当日は OG が運営に協力したり、パフォーマンスに加わったりするなど、現役メンバーを支えている姿も印象的でした。

競技チアリーディングサークル WILD BOARS (ワイルドボアーズ)

私たちは年二回の大会出場や学祭、地域のイベント出演を目標に、和気あいあいと練習をしています。私たちと高校時代を超えるような大学生活を送りませんか??未経験でも大丈夫なので、ぜひぜひ体験や見学に来てください!



事前申し込み制にし、当日会場での受付で検温を実施するなど、感染症対策も徹底されていました。



体育会 ラグビー部

都立大ラグビーパークが復活！！  
子どもたちがラグビーを楽しみました！

2022年2月6日（日）、八王子富士森公園クーパー・フットボールパークにて、ラグビー部主催「TMU ラグビーパーク 2022」が開催されました。

企画のきっかけは、コロナ禍で活動休止になったことでした。「ラグビーをやる意味」や「部活に所属する意味」を改めて考える中で、「部活でラグビーをやる意味って？勝ちの価値って？何のために勝ちたい?」、そんなコーチや部員から問いかけが数多く飛び交ったそうです。そこで自分たちが納得するまで議論をつくしました。最終的にラグビー部として共有した想いは、「人としての成長、組織として1つになること、目標に向かって頑張ること、世の中に価値を与えること、それらを目指すべきではないのか」ということ。

体育会 ラグビー部

こんにちは!東京都立大学ラグビー部です。私たちラグビー部の目指す姿は「愛されるチーム」です。その実現のために地域の方々と交流する機会を増やすべく、ボランティア活動を始めました。

そこから、今までは参加するだけで終わっていたボランティア活動を「今度は自分たちの手で」と考えるようになり、企画から支援者・会場探し、広報活動など全て自分たちで行い、今回実現に至りました。

当日は、つながりのあるラグビースクールや小学校に配布したチラシを見て申し込んだ子どもたちがたくさん参加し、体を動かすことの楽しさ、そしてラグビーという競技のおもしろさを体感していました。



多摩地区の大学と地域によるネットワーク（ボラネット多摩）が主催する  
「大学生ボランティア活動展～えっ?多摩地域でこんなことをしていたの?～」に出展しました！

2022年3月12日（土）、イオンモール多摩平の森で開催された「大学生ボランティア活動展」に、「東日本きずなプロジェクト」と「いきもの!サークル東京」が出展しました。これまでは、被災地支援や地域防災・減災活動に取り組む学生団体が同イベントに参加していましたが、今年度からは活動分野の範囲を広げ、より多くの学生団体が参加できる形になりました。

当日は子どもを連れてご家族を中心に多くの方にお越しいただいて大盛況。体験ブースや物産展などの様々な企画を通して、大学生のボランティア活動の状況やその取組についてお伝えすることができました。コロナ禍で他大学の学生と交流する機会も減少していたため、イベントを通して新たな気付きを得たり、刺激を受けたりすることもできたようでした。

東日本きずなプロジェクト



大槌ミニ物産展&郷土料理のレシピ配布



写真展「大槌10年の変遷」

いきもの!サークル東京



都立大いきもの図



▲3/7-11に実施した同所でのパネル展

「多摩地区の大学と地域によるネットワーク(ボラネット多摩)」は、中央大学ボランティアセンター、明星大学ボランティアセンター、実践女子大学キャリア生活支援課、東京都立大学ボランティアセンター、法政大学多摩ボランティアセンター、日野市企画部地域協働課、日野市・ボランティアセンター(日野市社会福祉協議会)が協働し、「大学生のボランティア活動」を通じた多摩地区の活性化のために、大学や地域の枠を超えて連携し、活動を行っています。

## I am a Volunteer

都立大生が取り組むボランティア活動を紹介！

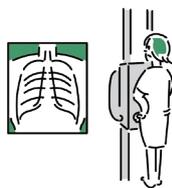
# ～変化する震災復興支援のカタチ・東北への関わり方～ 放射線学科で学びながら、原発事故に向き合う



### 東日本きずなプロジェクト

西山 千晴 (にしやまちはる) さん  
健康福祉学部 放射線学科 3年

そこに住んでいる方のお話を初めてお聞きし、  
現地に行って、現地の人のお話を聞くことが  
重要だなんて思いました。



「東日本きずなプロジェクト（以下、きずな）」の源流は、2012年に発足した「早慶きずなプロジェクト」にあります。

この団体は、早稲田大学の教員である村田信之さんが取材の際に大槌町を訪れ、現地でのコミュニティ支援や放課後学校に関する取組の支援方法を模索したところから始まりました。

その後、2011年の秋に早稲田大学・慶應義塾大学の学生有志が被災地を訪問し、2012年の春に学生団体として発足。「10年後の大槌に貢献する」という目標を立て、現地では主にソフト面に関してボランティア活動を行いました。

2014年に首都大学東京（現：東京都立大学）の学生がこの団体に加入後、徐々にその割合が増加したこともあって、2015年には現在の「東日本きずなプロジェクト」に名称を変更しました。現在の構成メンバーは、全員が都立大生です。

### 東日本きずなプロジェクトの活動

震災直後はコミュニティ支援などの具体的な支援活動を行っていましたが、現在は、「ミーティング」「イベント」「スタディツアー」が主な活動になっています。

「スタディツアー」では、東北の被災三県を中心に訪問しており、特に岩手県の大槌町には、団体設立当初から必ず訪れています。

2019年度までは、2泊3日程度のスタディツアーを年3回ほど実施し、現地で美味しいものなども食べていました。

その他、東京都多摩地域で開催されるイベントに参加したり、大学祭「みやこ祭」では、宮城県の名産品である「笹かまぼこ」の販売などもしていました。

### コロナ禍での活動

コロナ禍の現在は、スタディツアーを実施することができないため、ミーティングやイベントが活動の中心となっており、大半の活動がオンラインです。

2020年度に加入したメンバーと初めて直接会えたのも年度末でした。

初心にかえって、改めて現地のことを調べてみよう、と、新入生が入ったタイミングで勉強会のようなことも実施したのですが、それを踏まえて、「やっぱり現地に行きたいね」という話になりました。なので、今できることを探しつつ、現地に行けるようになったら早く行きたい、という感じです。



定点観測を続けている大槌町・城山公園からの景色

### 現地との関わり方

設立当初は大槌町の漁師さんのお手伝いなどをしていたそうなのですが、だんだん時間が経つにつれて、道路が整備されたり、新しい駅ができたりと、ハード面の復興は進んできていたので、支援というよりはむしろ「自分たちが東北と関わっていたいから行く、行き続ける」というカタチになっています。

お一人、大槌と私たち大学生をつないでくださる方がいて、最近は連絡が取れていないのですが、昨年度は Zoom でお話ししました。先輩方のこれまでの取組のおかげで、今も現地の方とつながることができています。

### 団体や活動の変化をどう捉えるか

やはり、きずなが10年ほど続いてきた団体ということもあって、団体の継続ということが私にとってのプレッシャーになっていました。

しかし先日、OB・OGの方とお話しする機会があり、そこで「活動のカタチを変えていくのは全然悪いことじゃないよ」という話を聞き、背中を押してもらえたように感じました。その言葉を団体に所属していた直接の先輩から聞いたことで、「あ、いいんだ」と素直に受け取れたように思います。

今は自分たちなりに、今いるメンバーでがんばれることをがんばりたいかなって思います。

きずなは、とても良い意味でメンバーそれぞれが個性のある人が多いです。

今年の新入生の中には、「震災に興味がある」「ボランティア活動に興味がある」というだけでなく、「家族旅行で何回も東北に行っていたけれど、東北についてよく

知らないから入った」という学生もいました。何かしら東北に愛着や興味がある学生が入って活動を続けているのが、今の「東日本きずなプロジェクト」です。メンバーそれぞれが、興味があることややりたいことを実現していけるのが、団体の強みであり、良いところだと思うので、その時にいるメンバーの個性によって、雰囲気であったり方針であったり、若干変わっていることもあると思います。そして今後も変わっていくかもしれません。



2019年度に一年生企画として実施した「福島県でのスタディツアー」の様子

### きずなに加入した理由

私は生まれも育ちも東京ですが、小学校4年生のときに経験した東日本大震災で、ものすごい恐怖を感じたという記憶が今でも鮮明に残っています。それ以降、震災について学んだり、自分にできることをしたりしたいなど考えるようになりました。ボランティア活動自体にも関心があったので、大学入学後に出会ったきずなに加入しました。

### 将来の夢は、放射線技師

私が放射線技師に興味をもったのは、小学校6年生の時でした。その後もなんとなく「放射線技師になりたいな」と思いながら中高生の時期を過ごしてきましたが、その間に起きたのが福島第一原発事故です。ニュースなどで頻繁に報道されていたこともあり、「放射線」という言葉がある意味日常的になっていました。もちろん、その中には放射線により生じた様々な悪影響についても含まれています。そのような状況で、「放射線技師になりたい」という想いも私の中に同時にあったので、自然と原発事故にも興味を湧きました。高校生の時の卒業論文のようなものも原発事故の内容について調べて、書きました。

### 初めて訪れた原発被災地

きずなに所属してからは、きずなの活動として何かできないかと考えるようになりました。

一年生のメンバーが中心となって準備する「一年生企画」というものが、きずなの伝統としてあるのですが、私が1年生だった2019年度は、福島県への日帰りスタディツアーを企画して、原子力発電所の周辺をめぐる現地のツアーに参加しました。福島県の被災地を訪れたのは、その時が初めてです。

これまで私が調べていた情報の多くは、インターネットを頼りにしていたものだったので、福島第一原発や東京電力といった設置者・管理者側に対する記事が多かったように思います。

しかし、参加したツアーのガイドさんは、これまでずっと福島で育ってきた方で、「原発はすごく身近で、原発はすごく良いものだよっていうふうには思っていたけれど、こういうことになっちゃって」といった住人側の視点で語られるお話をお聞きすることができました。そこに住んでいる方のお話を初めてお聞きし、現地に行くと、現地の人の話を聞くというのは重要だと思っていました。

近隣の小学校では「社会科見学として原発の資料館に訪れていた」ということや、原発に勤めている方が周りに多かったというお話からも、原発は地域住民の生活と切り離せない存在だったんだなと感じました。

私は現在3年生で、ちょうど今年、研究室の配属決定がありました。

放射線学科の中にも様々な研究室があるのですが、私はこれまで福島原発事故に関心があり、それに関連する計測などに取り組んでみたいと考えていたので、環境放射線の計測や研究ができる研究室に希望を出していました。無事に配

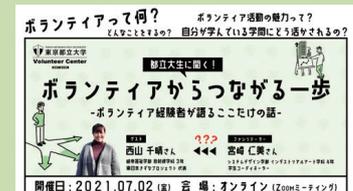
属が決まったので、来年度に完成させる卒業論文は、それに関連する内容になると思います。震災や放射線に関連する問題と一口に言っても山程あって、それも多岐にわたると思うのですが、少しでも自分が関わることで、自分の知識や気付きが増えたら嬉しいなと思います。

きずなに所属して、東北のことについて少しは詳しくなっていると思うのですが、そうなれたのは、きずなにいて「原発事故などの難しい内容に関してもアクティブになろう」と考えることができたからだと思います。

### 大学卒業後の関わり

頻繁に現地に行くことは難しいかもしれませんが、行き続けたいと思いますね。あとは、家族や親戚と一緒に東北に行くと、「こういうところだよ」というように、きずなで学んだことを身近な人に伝えていくということは、ずっと続けていきたいなと思います。

より詳しく知りたい方は・・・



オンラインイベントのアーカイブをご覧ください!



東日本きずなプロジェクト

Twitter: @kzn\_pj

Instagram: @kizuna\_pj

Web サイト: <https://kzn-pj-wixsite.com/site>



# 01

3月18日(金)開催

ボラセン YouTube チャンネルにて、アーカイブを公開中!

東京都立大学ボランティアセンター主催

## 2021年度「大学生ボランティア活動報告会」を開催しました!

3/18(金)に、オンライン(Zoom ウェビナー)で、「大学生ボランティア活動報告会」を開催いたしました。

今年度のテーマは、「今、制限をどう乗り越えるか」です。

新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の想いを妨げる「制限」がまだまだ存在しています。

一方で、昨年度から試行錯誤し、方針を再検討しながら、多くの学生が、そして学生団体がボランティア活動を続けてきました。コロナ禍でボランティア活動に取り組む都立大生は、何を工夫し、どのような活動をしてきたのでしょうか。ボランティア活動や学生の想いを妨げる「制限」とは何か、その制限をどう乗り越えていくのか、学生の言葉を通して皆様に直接お伝えいたします。現在、アーカイブ動画を公開しておりますので、ぜひご覧ください!

### タイムスケジュール

#### オープニング

##### 「趣旨説明」

宮崎 仁美 (学生コーディネーター/システムデザイン学部 4年)

##### 「開会あいさつ」

伊藤 史子 先生 (東京都立大学 副学長/ボランティアセンター長)

#### 第一部

##### 「学生団体の活動報告」

都立大ボラセン登録団体による 2021 年度の活動報告を実施いたしました。

##### 「発表5団体によるパネルトーク + 質疑応答」

各団体の代表者によるパネルトークです。学生コーディネーターがファシリテーターを務め、視聴者の質問をリアルタイムに拾い上げながら、それぞれの取組を掘り下げて聞いていきました。

#### 第二部

##### 「学生団体の活動報告」

##### 「発表5団体によるパネルトーク + 質疑応答」

#### クローゼィング

##### 「アドバイザーによる講評」

信太 奈美 先生 (健康福祉学部 准教授/ボランティアセンター アドバイザー)

##### 「講評・閉会あいさつ」

大橋 隆哉 先生 (東京都立大学 学長)

### 発表団体

※発表順

1. 「スポーツボランティアプログラム」
2. 「体育会ラグビー部」
3. 「体育会応援団リーダー部」
4. 「競技テアリーディングサークル WILD BOARDS」
5. 「児童文化研究会」
6. 「地域ボランティアプログラム 松木日向緑地プログラム」
7. 「いきもの!サークル東京」
8. 「SCOK (スコック)」
9. 「東日本きずなプロジェクト」
10. 「ボランティアセンター 学生コーディネーター」



アーカイブ動画の公開がスタート!

「東京都立大学ボランティアセンター」公式 YouTube チャンネルにて、アーカイブ動画を公開しています。各団体の発表・パネルトークの様子をぜひ視聴ください!

「東京都立大学ボランティアセンター」  
公式 YouTube チャンネル



▲広報チラシ



▲パネルトークの様子



# 02

3月下旬~5月下旬に開催

2022年度 都立大ボランティアプログラム

## スポーツ・地域(松木日向緑地)のプレ企画を実施します!

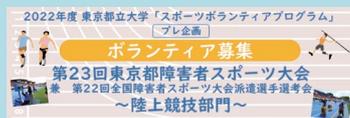
都立大独自のボランティア活動として、ボランティアセンターが開発・運営している「ボランティアプログラム」について、2022年度の参加者募集が5月頃に始まります。

その参加者募集に先立ち、実際の活動を体験し、ボランティアプログラムでの活動をイメージすることができる「プレ企画」を実施いたします。1日だけの参加でもできますので、ボランティア活動やボランティアプログラムに関心のある方、何か新しいことを初めたい方など、ぜひご参加ください!

【実施予定のプレ企画】※詳細な活動日・活動内容・申し込み方法などはボラセン Web サイトでご確認ください

### スポーツボランティアプログラム

- ・東京都障害者スポーツ大会  
「陸上競技(知的障害部門、身体・精神障害部門)」  
実施日: 5/21(土)、22(日)、28(土)  
会場: 駒沢オリンピック公園 陸上競技場 他



### 地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」

- ・「竹の間伐 & たけのこ掘り」  
実施日: 3/25(金)、4/23(土)  
会場: 南大沢キャンパス 松木日向緑地



### 表紙の人

## 体育会ラグビー部



「体育会ラグビー部」は、関東大学ラグビー連盟の3部リーグに所属しており、2021年度は5位の成績を収めました。また、『人として成長し、愛されるチームになる』を部の活動目的に設定し、競技に励むだけでなく、近隣地域の方々と巻き込みながら子どもたちにラグビーの魅力を伝えるための「ラグビーパーク」なども開催しています。

2018-19年度には、ボラセン主催の「釜石ラグビー 2019 応援プロジェクト」にラグビー部として参加し、ラグビーを通じた被災地復興を目指して、釜石鶴住居復興スタジアムのオープニング DAY や岩手・釜石会場で開催された「ラグビーワールドカップ」でボランティア活動をしました。

東京都立大学ボランティアセンター News letter

『都立大ボラセン』vol.2



[企画・制作・発行]  
東京都立大学ボランティアセンター  
[発行日] 2022年3月31日(木)

所在地: 東京都八王子市南大沢1-1

南大沢キャンパス 1号館 1階

TEL: 042-677-1354 / FAX: 042-677-1812

メール: tmu-volunteer@tmj.tmu.ac.jp

Web サイト: https://volunteer.tmu.ac.jp

Twitter: @tmu\_volunteer

最新情報は、  
SNS でチェック!

Twitter



Instagram



YouTube



Web サイト

